



SBS ビジネスレポート

2025年12月期 期末株主通信

2025年1月1日～2025年12月31日



| | | |
|-------|------------|---|
| INDEX | 社長メッセージ | 1 |
| | 連結業績 | 1 |
| | 特集1 | 2 |
| | 特集2 | 3 |
| | トピックス | 4 |
| | 会社概要&株式の状況 | 5 |

新中期経営計画がスタート。 物流事業の営業利益率向上と、 社会との共生をめざします

代表取締役社長 鎌田 正彦

2025年度は、雇用・所得環境の改善や消費者マインドに持ち直しの動きが見られた一方で、人手不足やエネルギー・原材料価格の高止まり、さらには地政学リスクの高まり等が景気の後退懸念となり、先行きは依然として不透明感が継続する情勢となりました。このような状況のなか、当社グループは、主力の物流事業において、既存顧客との取引拡大に加え、高い物流機能を求める新規顧客の獲得や、EC物流の需要取り込み、ラストワンマイルにおける置き配サービスの本格導入等、サービスラインナップの拡充に注力してまいりました。また、ここ数年は積極的な営業施策とM&A戦略によって売上高が大きく拡大した一方で、利益率が伸び悩んでいることから、営業利益率の向上を重要な課題と位置づけ、不採算拠点の収支改善と倉庫の空き坪解消等の収益構造改革の施策に取り組んでおります。

2025年度の連結業績につきましては、新規顧客の獲得や新規連結効果に加え、収益構造改革の進展等により、売上高は前年同期より421億99百万円増(+9.4%)の4,903億44百万円で過去最高を更新、営業利益は同35億91百万円増(+20.3%)の212億95百万円、経常利益は同26億80百万円増(+14.5%)の211億43百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同21億64百万円増(+22.5%)の117億83百万円でこれも過去最高を更新し、3期ぶりに増収増益を達成しました。

当社が強みとする企業間物流は、経済環境の変化に左右されることから、景気の先行き不透明感が続く現状では需要の大きな伸びを見込みにくい状況です。そうしたなか、当社は



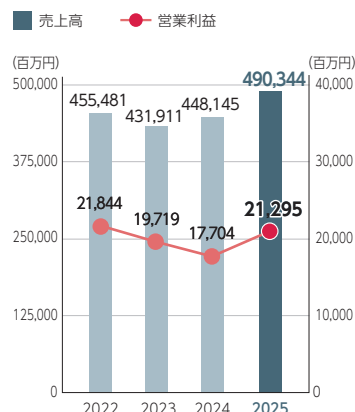
グループ各社間のシナジー創出により営業力にさらに磨きをかけ、物流事業の成長戦略を積極的に推進しています。また、前述のとおり物流事業の利益率向上を重要な課題に位置づけ、延床面積が総計で100万坪を超えた自社倉庫のフル活用や、トラックの積載率向上などの方策を着実に積み重ね、不採算拠点の収支改善と倉庫の空き坪解消に引き続き取り組んでおります。

このような状況において、当社はこのたび、2030年度を最終年度とする5か年の中期経営計画「Harmonized Growth 2030」を策定しました。これは物流事業における成長分野である3PL事業、国際事業、EC事業に自社開発倉庫への投資を中心とする不動産事業を組み合わせ、さらに国内外での積極的なM&Aにより高成長を継続し、売上高の伸長のみならず、利益率の向上も伴った“Harmonized Growth(均整のとれた成長)”を追求するものです。2030年度には連結売上高7,000億円、物流事業の営業利益率4.5%をめざします。

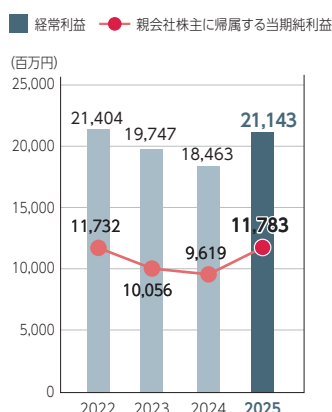
また、私たち物流事業者が社会のなかで存立していくために、まず事故のない安全・安心な物流サービスを提供すること、さらに地球環境への配慮や労働力不足問題を踏まえた人的資本経営の強化など、多様化する社会からの要請と物流ニーズに柔軟に対応する取り組みを、今後さらに強化してまいります。株主の皆さまには、当社の事業活動と成長戦略、社会との共生を図る企業姿勢をご理解いただき、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当期の連結業績

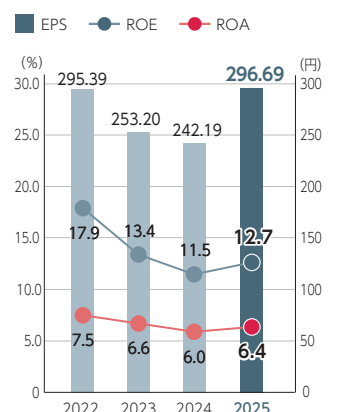
売上高／
営業利益(右軸)



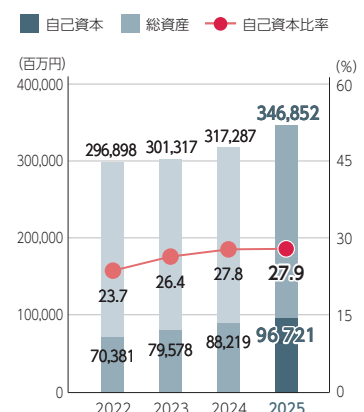
経常利益/親会社株主に
帰属する当期純利益



一株当たり純利益(EPS)(右軸)／
自己資本純利益率(ROE)／
総資産利益率(ROA)



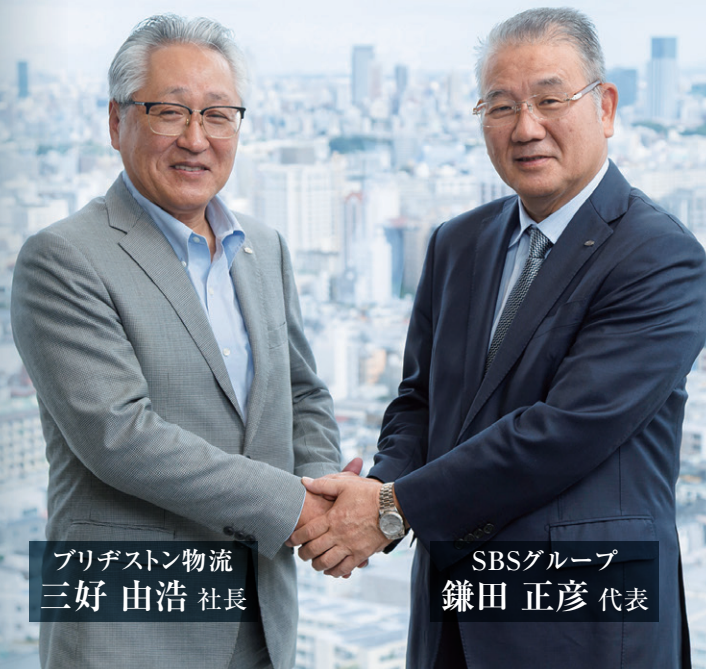
自己資本／総資産／
自己資本比率(右軸)



タイヤ物流分野で “唯一無二”の価値創造へ

2025年10月1日、ブリヂストン物流がSBSグループに加わりました。タイヤ物流という専門性の高い分野で長年培ってきたノウハウと、SBSグループの総合物流力が融合することで、どのような新たな価値が生まれるのか――。

本特集では、ブリヂストン物流の三好社長とSBSホールディングスの鎌田代表による対談を通じて、グループ参画に至った背景や、今後目指すシナジー、成長への展望についてご紹介します。



ブリヂストン物流
三好 由浩 社長

SBSグループ
鎌田 正彦 代表

ブリヂストン物流とは？

1995年7月に株式会社ブリヂストンの物流機能部門から独立し創立。タイヤ物流を柱として培ってきたノウハウ、技術、ネットワークが強みです。

SBSグループ入りの経緯

三好社長(以下、三好) ブリヂストン本体がROIC(投下資本利益率)を経営指標として重視する中で、物流子会社である当社はコスト部門という性質が強く、評価されにくい立場でした。また、物流危機に対応するための輸送能力確保や業務効率化には投資が必要ですが、その資金が回りづらい状況でした。そして、今のままでは成長に限界があると感じ、今回の株式譲渡に至りました。

鎌田代表(以下、鎌田) SBSグループ、特にSBSロジコムは、ブリヂストンさんと数十年にわたりタイヤのテスト走行への協力やタイヤの使用などを通じて関係性を築いてきました。我々SBSにはリコーさんや東芝さん、古河電工さんといった大手

メーカーの物流子会社を迎え、業務改善と成長を支えてきた実績があり、それを活かしてお手伝いさせてほしいという熱意をお伝えした結果、お任せいただくことになりました。

三好 まさしく、商物分離(商流と物流の分離)が業界全体に広がっている中で、非常に良いタイミングであったと思います。

鎌田 そうですね。今は、競合他社であっても物流は共同でやろうという時代です。共同配送はCO₂削減という時代のニーズに応えると同時に、各社のコスト削減にも直結します。SBSは資本が物流会社、つまり中立的な立場だからこそ、競合関係にあるメーカー同士の「橋渡し」役を担うことができます。それこそが強みであり、今回ご評価いただけたと思っています。

会社の強みと目指すシナジー

三好 当社の強みは、タイヤにおける圧倒的なシェアと日本全国のネットワークです。今後は、SBSグループの持つ知見や顧客と掛け合わせることで大きなシナジーが生まれると期待しています。

鎌田 まさにその通りですね。ブリヂストン物流もSBSという中立的な立場になることで、メーカー各社の懸念点がなくなり非常に「乗りやすく」なりますね。実際に具体的な話も出ていて、SBSロジコムが倉庫をお貸ししているタイヤメーカーさんから「ブリヂストンと共同配送できないか」というお声がありました。

三好 タイヤというのは、独特の臭いや手積み手降ろしなどの課題を抱えています。これは業界共通ですから、業界全体がまとまることに対してどのメーカーもウェルカムなはずですよ。

鎌田 将来的には日本だけでなく効率化を求める世界のタイヤメーカーが必ずやブリヂストン物流に集まってきて、唯一無二の存在感を発揮できると信じています。また、海外物流においてもSBSが合理化できると考えています。

「夢」に向かって、ともに「挑戦」を――

鎌田 SBSグループは事業発展のために「しっかり投資」し「スピード感を持って判断」します。ブリヂストン物流の皆さんには、やりたいと思うことをどんどん提案していただき、ぜひ夢を持って挑戦してほしいです。

三好 私から当社の社員の皆さんに期待するのは、鎌田代表と同じく「挑戦」です。これまでブリヂストン内で培ってきた経験や

知識が外の世界でどこまで通用するのか、試していきましょう。私は「変わらないことが最大のリスク」だと常に言い続けてきました。物流大変革期の今こそ、変わり続け、挑戦し続けていきたいと考えています。そしてSBSグループの皆さんには、その豊富な経験と知識をぜひ我々に教えていただき、多くのシナジーを生み出していただけることを楽しみにしています。

ブラックバードロジスティクス B.V.(オランダ)をグループ化

— 欧州事業拡大の橋頭堡に —

2025年4月、オランダに本拠地を置く3PL企業グループの持株会社「ブラックバードロジスティクスB.V.(以下、ブラックバードロジスティクス)」をSBSグループに迎えました。今後、同社を中心として欧州地域における3PL事業の拡大を図るとともに、中国・アジアの既存事業や顧客ネットワークと融合したSBSグループ全体の国際物流事業強化につなげます。



ロッテルダム港近くに拠点を持つ3PL企業

ブラックバードロジスティクスは、1948年にオランダのエンクハイゼンで設立された「ズワルウロジスティックB.V.(以下、ズワルウ)」を中核会社とする物流企業グループです。同社のビジネスの柱は、欧州で急成長を続けている、輸入品を販売する大手ディスカウント小売業者の事業拡大を支えることです。ズワルウはメイン倉庫を欧州最大港であるロッテルダム港近隣に構え、中国をはじめとするアジア地域などからコンテナ船で運ばれた商品をデバンニング(荷卸し)するとともに、保管商品をオーダー受注後にピッキングし、欧州各地の店舗向け配送センターへ納品しています。

同社はロッテルダム港近隣で常温倉庫3棟、危険物倉庫1棟を運営するほか、本社を置くオースターブロッカーにも倉庫1棟を稼働しています。グループではトラック約65台、シャーシ/トレーラー約120台を所有しており、ベネルクスで600台以上のトラックを稼働するトランスミッションネットワークにも参加しています。また、ズワルウとしてもヨーロッパ全域への配送のために強力な運送会社ネットワークを維持しています。

ブラックバードロジスティクスB.V.の概要

所在地: Veilingweg 1, 1695 GC, Blokker, Netherlands

資本金: 18千ユーロ

売上高: 53,745千ユーロ(2024年12月期)

ウェブサイト: <https://www.dezwaluw.com/>

効率的で生産性の高い運営体制

ズワルウの特長の一つが、高度な倉庫オペレーションノウハウです。限られた庫内スペースを最大限に活用するため、パレット貨物は倉庫の天井ぎりぎりまで高積みし、生産性を高める荷役機器を導入しています。これらの運用は、知識豊富なスタッフと高い効率性を確保する倉庫管理システムによってサポートされています。

今後は、SBSグループとしてブラックバードロジスティクスの事業拡大を支援しながら、グループシナジーを発揮し、国際物流事業全体のさらなる競争力強化を図ります。ズワルウは、大手ディスカウント小売事業者関連の物流拡販に向けて、欧州での新たな倉庫施設の設立も視野に入れます。また、中国やアジア地域から欧州への海上輸送においては、SBSネクサードグループやSBS東芝ロジスティクスグループといったSBSグループ各社が展開するフォワーディング事業との連携も深めていきます。



SBSグループの国際物流事業拡大へ

SBSグループは、SBSネクサードグループやSBS東芝ロジスティクスグループを軸に、国際物流事業の拡大を推進してきました。その一環として、今回、現地で高い評価を受ける3PL企業・ブラックバードロジスティクスとの新たなパートナーシップが実現しました。欧州事業の基盤強化により、グローバルネットワークの拡充と顧客サービスの質的向上を図ることで、グループの成長軌道をさらに高めていきます。

グループ会社でもM&Aが活発化 — SBS東芝ロジスティクスが丸嘉運輸倉庫の全株式を取得 —

SBS東芝ロジスティクスは2025年12月に、大阪府吹田市に本社を置く丸嘉運輸倉庫の全株式を取得してグループ化しました。

丸嘉運輸倉庫は1971年1月の会社設立以降、東京・大阪・名古屋に拠点を展開し、医療機器・精密機器の輸送・搬入・メンテナンスといった高付加価値な物流サービスを提供してきました。

今後、同社が持つ事業免許やノウハウを活用して、SBS東芝ロジスティクスのお客さまへ新たなサービスを提供するほか、丸嘉運輸倉庫のお客さまにもSBSグループの多様なソリューションと新たな付加価値を提案することで、双方のお客さまに喜ばれるサービスの拡充を目指します。



戦略的M&Aにより国内外で事業基盤を拡充

SBSグループでは、中長期的な成長を見据え、国内外で戦略的なM&Aを継続的に推進しています。2025年4月には欧州においてブラックバード ロジスティクスB.V.の株式80%を取得し、欧州物流ネットワークの強化を図りました。これに先駆け、2月にはインドネシアのPT TANGGUH JAYA PRATAMA社をグループに迎え、アジアでの事業基盤を拡大しています。さらに10月にはブリヂストン物流株式会社、12月には丸嘉運輸倉庫株式会社の株式を取得し、専門性と対応力のさらなる向上を進めています。

多様化する顧客ニーズに応える物流拠点を整備

顧客ニーズの高度化や物流量の増加に対応するため、SBSグループでは全国各地で物流拠点の新設・機能強化を進めています。東北地域では、SBS東芝ロジスティクスの「名取倉庫」が開設され、地域物流の中核拠点として稼働を開始しました。4月にはSBSフレックが三温度帯に対応した「阿見低温物流センター」を開業し、食品物流体制をさらに強化。9月には食品配送を展開するSBSゼンツウが同社初の西日本拠点となる「西淀川センター」を開設するなど、エリア特性を踏まえた最適な物流ネットワーク構築を推進しています。



阿見低温物流センター

環境・人材・社会への取り組みを着実に推進

SBSグループでは、環境負荷低減や人材の働きやすさ、社会貢献を重要課題と捉え、ESG・サステナビリティへの取り組みを進めています。SBSゼンツウでは2025年1月に「働きやすい職場認証制度」において複数拠点が最高位の三つ星を取得しました。また、SBSホールディングスでは4月に、日本初となる量産・量販を前提とした小型EVコンバージョントラックの認可取得にも参画。さらにSBSネクサードは12月に「東京2025デフリンピック」の大会運営を支える物流業務を担い、社会的価値の創出にも貢献しました。



「働きやすい職場認証制度」の三つ星認証マーク



小型EVコンバージョントラック

社名変更により新たな成長ステージへ

2025年11月、SBSリコーロジスティクスは同社の商号を2026年1月1日付で「SBSネクサード」へ変更することを決定しました。今回の社名変更は、事業領域の進化や今後の成長を見据え、企業としての姿勢と方向性をより明確にするものです。新社名のもと、これまで培ってきた物流の知見とグループシナジーを生かし、付加価値の高いサービスの提供と持続的な企業価値向上に取り組んでまいります。



SNSを通じて グループの魅力を発信

SBSグループでは、企業認知の向上と理解促進を目的に、SNSを活用した情報発信を強化しています。SBSネクサード、SBSロジコム、SBS即配サポート、SBS自動車学校など複数のグループ会社がInstagram、TikTok、YouTube、X、Facebookといった多様な媒体を通じて、ステークホルダーとの接点拡大を図っています。



SBSロジコム公式TikTok

会社概要

社名 SBSホールディングス株式会社
 代表取締役 鎌田 正彦
 創立 1987年12月16日
 資本金 39億2000万円
 売上高 4,903億円(連結) ※2025年12月期
 所在地 〒160-6125 東京都新宿区西新宿8-17-1
 住友不動産新宿グランドタワー25階
 TEL:03-6772-8200(代表)
 事業内容 物流事業、不動産事業、マーケティング事業、人材事業 他

■連結子会社 (2026年1月1日)

SBS東芝ロジスティクス(株)

SBSロジスター(株) 東芝ロジスティクス上海外高橋社
 東芝ロジスティクス杭州社 東芝ロジスティクス大連社
 東芝ロジスティクス香港社 東芝ロジスティクスシンガポール社
 東芝ロジスティクスフィリピン社 T Lフォワードینگサービス・フィリピン社
 東芝ロジスティクスタイ社 T Lサービスタイ社
 東芝ロジスティクス・マレーシア社 東芝ロジスティクス・ベトナム社
 東芝ロジスティクス・インド社 東芝ロジスティクス米国社
 東芝ロジスティクス欧州社

SBSネクサード(株)

SBS三菱ロジスティクス(株) RICOH LOGISTICS CORPORATION
 RICOH INTERNATIONAL LOGISTICS(H.K)Ltd. 理光国際貨運代理(深圳)有限公司
 SBS Logistics(Thailand)Co., Ltd. SBS Vietnam Co., Ltd.
 (株)ジャス SBSグローバルネットワーク(株)

SBSロジコム(株)

SBSフレイトサービス(株) SBSロジコム関東(株)
 旭新運輸開発(株)

SBSフレック(株)

SBSフレックネット(株) (株)日ノ丸急送

ブリヂストン物流(株)

東和運輸(株)

SBS即配サポート(株)

SBSゼンツウ(株)

SBS NSKロジスティクス(株)

SBS古河物流(株)

SBSスタッフ(株)

SBSファイナンス(株)

マーケティングパートナー(株)

SBSアセットマネジメント(株)

(株)エルマックス

SBS Europe B.V.

Blackbird Logistics B.V. De Zwaluw Logistiek B.V.
 Pyxis Logistic Solutions B.V. Maasvlakte Customs Services B.V.
 De Zwaluw Shipping B.V.
 Transmission Hoorn B.V.

■その他関係会社(海外)

SBS Logistics Singapore Pte. Ltd. [シンガポール]
 SBS Logistics Holdings Hong Kong Ltd. [香港]
 SBS Total Logistics Malaysia Sdn. Bhd. [マレーシア]
 PT TANGGUH JAYA PRATAMA [インドネシア]
 TAS Logistics Co., Ltd. (Thailand) [タイ]
 Atlas Logistics Private Ltd. [インド]

株式の状況

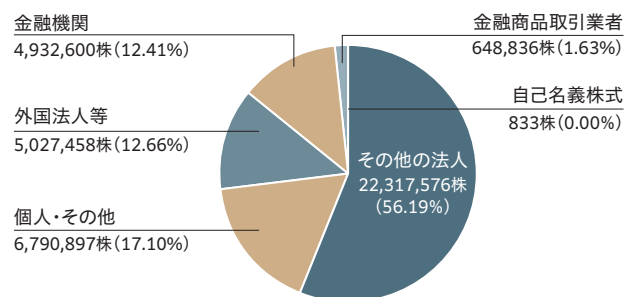
発行可能株式総数 154,705,200株
 発行済株式の総数 39,718,200株
 単元株制度の有無 有(100株)
 株主数 4,206名

大株主の状況 (2025年12月31日現在)

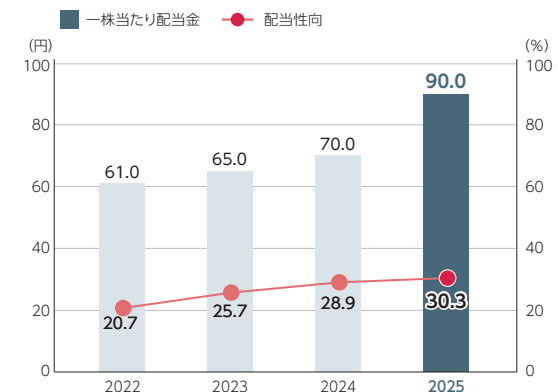
| 株主名 | 持株数 | 持株比率(%) |
|--|------------|---------|
| 株式会社鎌田企画 | 19,688,400 | 49.57 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 2,924,900 | 7.36 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口) | 1,662,700 | 4.18 |
| SBSホールディングス従業員持株会 | 1,240,700 | 3.12 |
| 和佐見 勝 | 1,078,600 | 2.71 |
| 東武不動産株式会社 | 1,001,000 | 2.52 |
| CEPLUX- THE INDEPENDENT UCITS PLATFORM 2 | 967,700 | 2.43 |
| 大内 純一 | 501,400 | 1.26 |
| 株式会社ばんせい総合研究所 | 410,000 | 1.03 |
| GOVERNMENT OF NORWAY | 304,975 | 0.76 |

※発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数第3位を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況 (発行済株式総数:39,718,200株)



配当金/配当性向(右軸)



株主メモ

■事業年度

1月1日~12月31日

■期末配当金受領株主確定日

12月31日

■定時株主総会

毎年3月開催

■株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
 TEL. 0120-232-711(通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

■上場証券取引所

東京証券取引所 プライム市場

■公告方法

公告掲載URL <https://www.sbs-group.co.jp/>

※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。